

## 人型シールによる対人関係表現に関する研究 II

目白大学大学院心理学研究科 住沢佳子  
目白大学人間学部 福島脩美

### 【要 約】

人型シールは、クライアントが認知している対人関係を査定すること及び、面接の話題を具体化するツールとして活用することを目的に開発するものである。人型シールは、いかにすればクライアントが伝えようとする状況をカウンセラーが的確に理解し、またクライアントはカウンセラーに伝達できたと感じるのかという視点で考案され、また、ツールとして導入する際にクライアントの抵抗や違和感を最小限にとどめ、クライアント-カウンセラー間における共通理解を深めることを念頭に開発されてきた。本稿では人型シールの基礎的性質を調べる調査の1つを報告する。その調査方法とは、参加者を2群に分け、1群には向かい合わせで近距離に配置した人型シールの用紙を、2群には背中合わせで遠距離に配置した人型シールの用紙を配布し、それぞれが物語を作成した。その物語をKJ法のグループ編成の手法によって分類したところ、向かい合わせで近距離の2体の人型シールの配置からは結婚、会話など肯定的な内容の物語が、背中合わせで遠距離の2体の人型シールの配置からは、喧嘩、離婚など否定的な内容の物語が表現された。以上のことから、向かい合わせで近距離、背中合わせで遠距離の表現から、共通の話題が引き出せる可能性が示唆された。

キーワード：人型シール、対人関係、クライアント理解、カウンセリングのツール

### 【問題と目的】

「ゆるやかな構造」(住沢, 2003)と言える学生相談では通常の面接時間が50分から1時間とされる(倉光, 2004)構造を守りにくいことがある。近年、徐々に常勤カウンセラーの配置により(徳田, 2006)学生相談の環境は整備されてきてはいるが、1人のカウンセラーがインテーク面接、カウンセリングの両方を兼ねる機関も少なくない。また、来室する学生も、授業の開始に伴い面接を切り上げたり、試験や長期休暇のため、間欠的な面接にならざるを得ない場合もある。人型シールは、十分な面接時間が確保されない状況において、クライアントが認知している対人関係を短時間で無理なく理解できるツールとして発案され、研究が重ねられて

きた。人型シールは、クライアントが身近な人との関係を人型で表現することによって自身の対人関係の理解が促進されるとともに、カウンセラーとクライアントが目の前の人型シールを話題にすることで共通認識が深められ(住沢・福島, 2008)、カウンセラーのクライアント理解が促進されると思われる。これまでの研究で距離、大小、配置にいくつかの特徴的な傾向が見られ、さらにこれらのツールが客観的に臨床現場に導入され得るかを検討するため、人型シールの基礎研究がなされてきた(住沢・福島, 2005; 住沢・福島, 2006; 住沢・福島, 2007; 住沢・福島, 2008)。これらの研究を通して明らかになった点は、方向と距離、大小、配置(上下)には一定の傾向がみられ、また人型シール

に漫画のような描き込みが描かれることが特徴として認められたことである。本研究は人型シールによる対人関係表現に関する基礎的研究の一部であり、人型シールの臨床現場におけるツールとしての導入可能性について次の3点を中心に吟味する。

### 1. クライアント理解について

カウンセリングにツールを導入する目的の1つにクライアント理解が挙げられる。福島(2004a)は、カウンセリングにおけるカウンセラーの姿勢として、クライアントに近づく努力と同時に、カウンセラーとクライアントの異質性を意識化することを勧めている。つまり、カウンセリングに導入するツール(道具)はクライアントをより深く理解するという目的であると同時に、クライアントの特殊性にも気づく役割があると言えるであろう。従って、クライアントに導入するツールについても、先ずは用いるツールに対する反応の一般的傾向について知見を得ておく必要がある。その一般的な反応に比してクライアントの反応の特徴を見分けることができるからである。

本稿で扱う人型シールは、クライアントの対人関係理解のために導入するものである。そこで、人型シールをある一定の距離と方向で配置した場合、一般的にはどのように理解がされるのかを検討することを第1の目的とする。

### 2. ツールについて

本研究は臨床に役立つツールとしての人型シール(住沢・福島, 2008)の可能性を検討する一連の研究の一部である。これまでに人型シールは事例の中で導入されてきたが(住沢, 2007)、本稿ではその基礎研究として調査されたものを報告する。

カウンセリングに導入されるツールは様々であるが、大きく分けるとアセスメントのツールとして、心理療法の効果が期待されるツールとして、そしてアセスメントと心理療法の両側面を持つものという3つに分類できると思われる。アセスメントとして導入されるものに各種心理テストをあげることができるが、前川(2004)は、その心理テストも数多く存在し、さまざまな基準による分類が可能であるとしている。心理検査は数多く考案され心理面接に導

入されており、近年では図式的投影法(水島, 1978)を用いた一連の研究で自己像単純図式からパーソナリティ特性を導く試みが成されている(須永・水島・草田, 1994)。また、草田(1995; 草田, 2002)は水島の研究を元に家族関係単純図式投影法を家族アセスメントとして報告している。

次にそれを用いることによって治療効果が期待される比重の大きいものでは、河合が1965年からわが国に箱庭療法を導入し、クライアントの作品制作中、セラピストがその傍に居ることの重要性を指摘している(河合, 2002)。さらに、弘中(2007)は平行箱庭制作の治療的効果を発表し、それまで一般的にはクライアントのみが作成していた箱庭療法の新たな可能性を報告している。また、杉浦(1994)はコラージュによる同時制作法が治療の展開を早めるとしており、田中(2004)は絵画療法の導入によりクライアント-カウンセラー関係が安定し、治療関係にゆとりが生じると述べている。

アセスメントおよび心理療法の両側面を共有するツールとしては、水島(1978)が面接の中で文字カード、円形コマ、人形を使った図式的投影法を考案し、後にはパーソナルコンピューターを用いてクライアントの心理測定や心理療法の可能性を検討している(水島・安武, 1992)。また、亀口(2003)はクヴェバック(Kvebaek, D., 1980)によるFamily Sculpture Techniqueを独自にアレンジしたFamily Image Test(家族イメージ法, 以下FIT)を家族臨床に導入し、クライアントの家族関係の査定や家族療法に役立てている。

本研究は、対人関係のアセスメントおよびクライアント-カウンセラー間のコミュニケーションのツールとしての人型シールの可能性について、これまでの研究(住沢, 2007)を踏まえて、さらに検討することを第2の目的とする。

### 3. 対人関係について

対人関係に関する研究では、ブル(Bull, P., 1987)が非言語的コミュニケーション研究の一つとして「姿勢と身振り」という側面から研究しており、その中でマレイビアン(Mehrabian, A., 1968a; Mehrabian, A., 1968b)が相手の好き嫌いによって身体方向が変化する実験結果

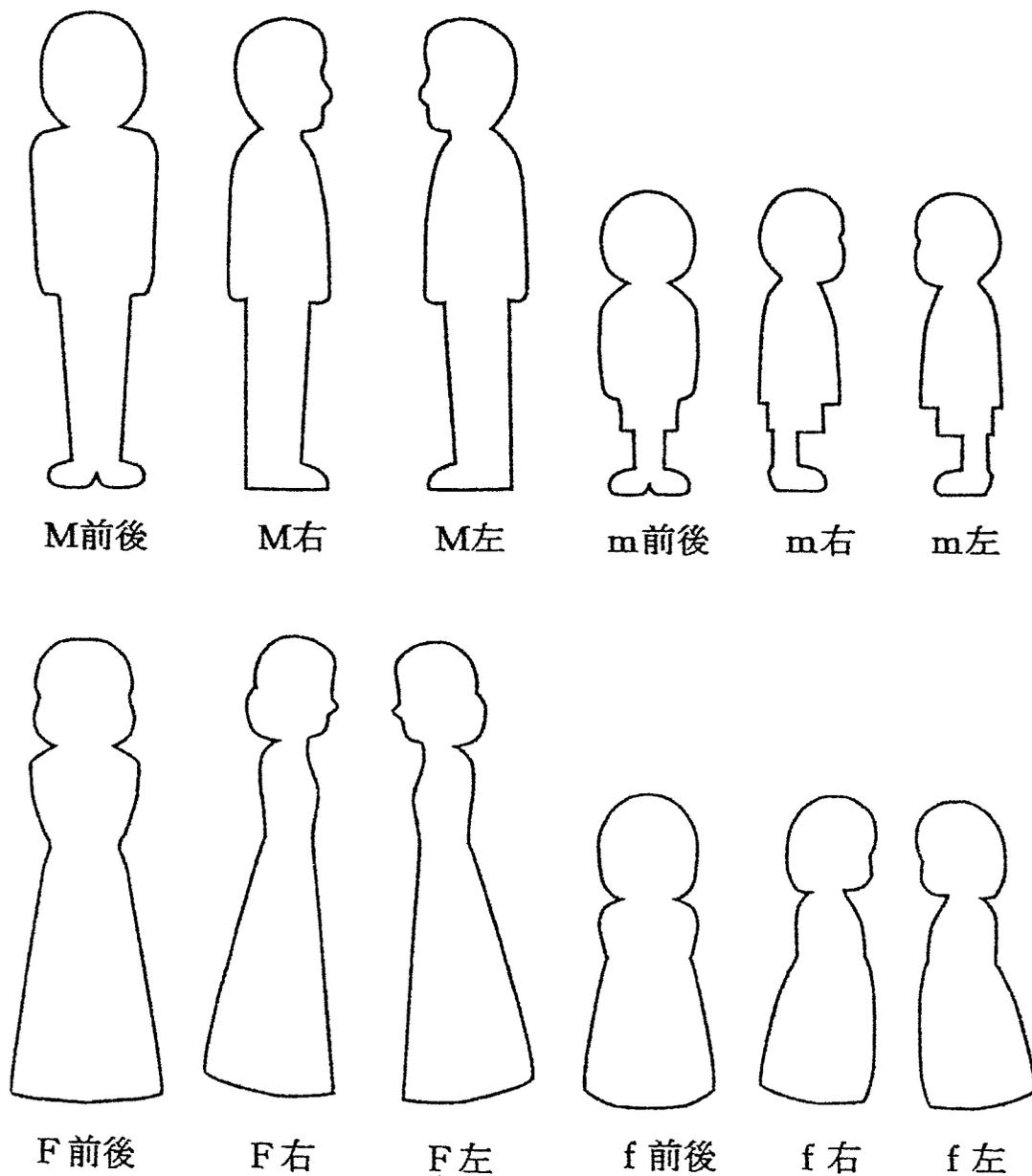


Figure 1 人型シール12体

大きい男性をM、小さい男性をm、大きい女性をF、小さい女性をfとし、正面と後姿をイメージしやすい人型シールには前、後、右向きには右をつけ左向きには左をつけた。

を得たことを紹介している。また、対人関係における方向と距離に関する研究では、渋谷(1978)が社会空間モデルを提唱し、対人間の距離と身体方向を対人関係のあり方の中で論じている。また、本間(1990)は、対人距離が対人相互作用におけるノンバーバル・コミュニケーションの働きの1つと捉えている。青野(2003)は対人距離の性差は相手の性や相手の地位、また文化によっても影響を受けると指摘している。さらに山口・吉澤・原野(1989)は心理的距離測定用スケールを独自に作成しており、「父親基準スケール」では、被験者と父親との信頼関係・親和性・親密感を「1」と規定し、他者との心理的距離が「10」段階の1次元スケール上でどの位置になるかを評定させ、性格(山口・小島・原野, 1991)、教師の指導態度(山口・米田・原野, 1993)、自己開示(山口, 1994)が心理的距離に影響することを報告した。本稿で扱う人型シールでは、方向、距離の表現が可能である。そこで、人型シールによる対人関係表現が一般的にどのような印象を与えるかを検討することを第3の目的とする。

ール上でどの位置になるかを評定させ、性格(山口・小島・原野, 1991)、教師の指導態度(山口・米田・原野, 1993)、自己開示(山口, 1994)が心理的距離に影響することを報告した。本稿で扱う人型シールでは、方向、距離の表現が可能である。そこで、人型シールによる対人関係表現が一般的にどのような印象を与えるかを検討することを第3の目的とする。

### 【方法】

人型シールの配置として、向かい合わせで近距離と背中合わせで遠距離に配置された2種類を提示し、参加者が物語を作成し、特徴的な表現が成されるかを調べる。なお、本研究は本来、

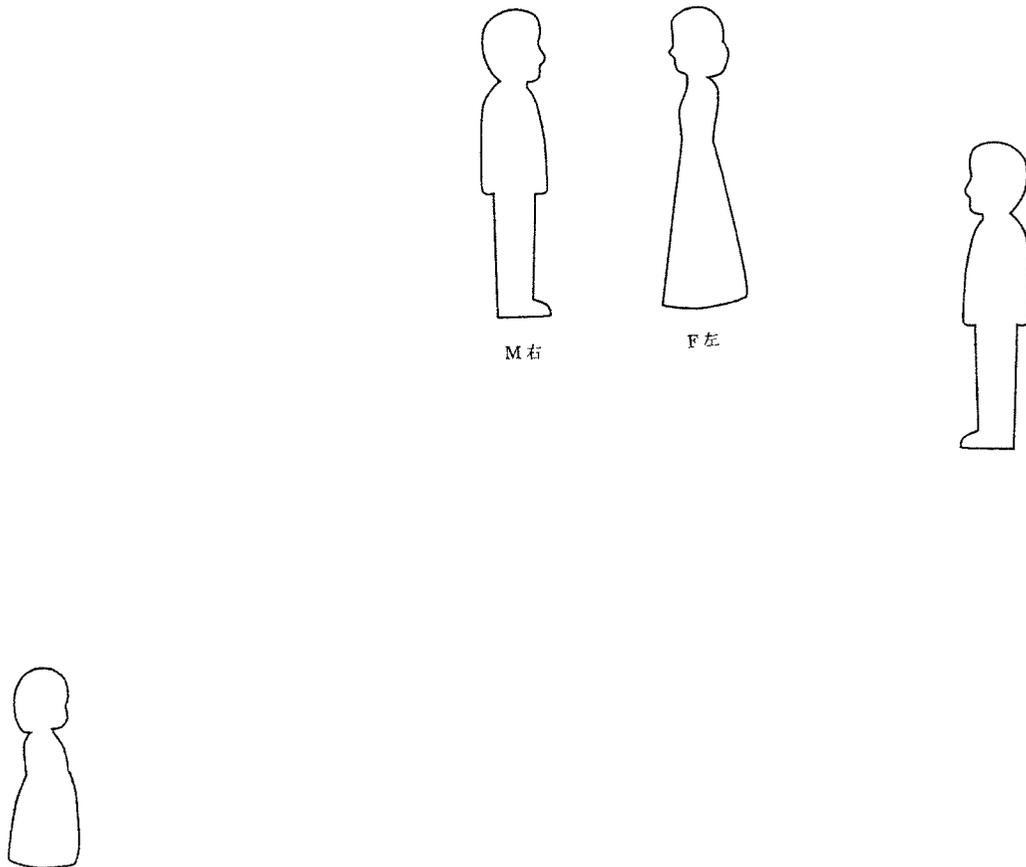


Figure 2 配置1. 向かい合わせで近距離のM右とF左

1) 事例を人型シールで配置する(住沢・福島, 2008)、2) 配置された人型シールを物語で表現する、という二つの関連する調査から構成されたものであるが、本稿では紙面の関係で「配置された人型シールを物語で表現する調査」のみを報告する。この研究は、マレー(Murray, H.A., 1943)を中心とするハーヴァード大学心理クリニックのスタッフらによって考案された Thematic Apperception Test(主題統覚検査, 以下TAT)の描かれた絵を刺激として自由な「物語づくり」を求める人格検査(池田, 2002)の手法からヒントを得たものである。

なお、人型シールは、男性をイメージしやすいものと女性をイメージしやすいものから構成

されており、前後、右向き、左向きが表現できる。また、それぞれ大小から成り、大きい男性をM、小さい男性をm、大きい女性をF、小さい女性をfとした。また、正面と後姿をイメージしやすい人型シールには前後をつけ、M前、m前、F前、f前とM後、m後、F後、f後とし、右向きの人型シールには右をつけM右、m右、F右、f右とし、また、左向きの人型シールには左をつけ、M左、m左、F左、f左と表示した(住沢・福島, 2008)(Figure 1)。

### 【調査】

#### 1. 調査目的

本調査では、一定の距離と方向で配置された

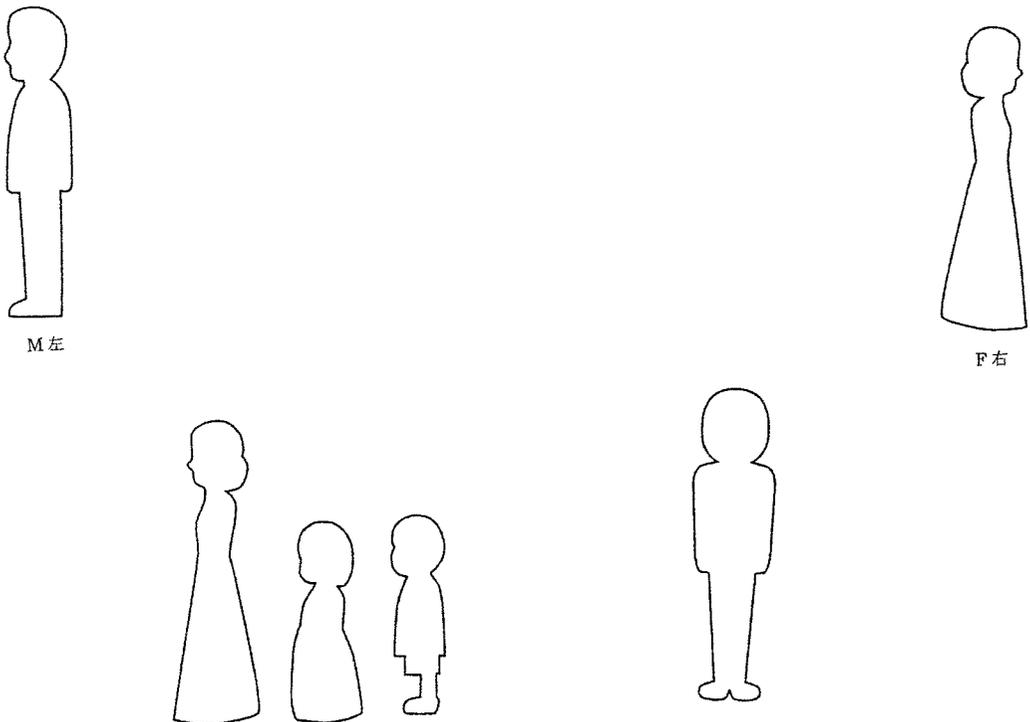


Figure 3 配置2. 背中合わせで遠距離のM左とF右

人型シールについて、参加者が物語を作成し、その物語において共通の対人関係が表現されるかどうかを調べる。物語は、多様性に富んでいるため、複数の人型シールの中で「向かい合わせで近距離の配置」と、「背中合わせで遠距離の配置」に限定し、物語から2者関係について語られている部分を抽出し、物語の主題と内容を「KJ法のグループ編成」(川喜多, 2004)までの手法で分類する。さらにその2者関係にはどのような人物を当てはめているのかを関係性と合わせて調べる。

## 2. 調査方法

### 1) 参加者

調査参加者は、関東圏の私立T大学に所属する108名(女性、大学1、2年生)で、主旨の説明と各自の了承を経て、次の2群に分けてT大学の教室内で実施した。

### 2) 人型シールと課題

あらかじめ、「向かい合わせで近距離の配置」(以下、配置1)と、「背中合わせで遠距離の配置」(以下、配置2)に貼られた人型シールのプリントを準備し参加者に配布した。教室内の参加者に2種類の用紙を配布することで2群に分け、集団個人法で行った。

1群には配置1の4体の人型シールが貼られ、M右とF左を向かい合わせで近距離(41mm)に配置したもの(Figure 2)を含むプリントを配布し、どのような状況をイメージし、物語を作るか調査した。参加者は57名であった。2群には配置2の6体の人型シールが貼られ、M左とF右を背中合わせで遠距離(208mm)に配置したもの(Figure 3)を含むプリントを配布し、どのような状況をイメージし、物語を作成するかを調べた。参加者は51名であった。

### 3) 手順

参加者の1群に配置1のプリント、2群に配置2のプリント、および物語を書く紙(A4)を配布し、「ここに貼られている人型の配置から想像して、物語を作ってください。あなたの身近な人をイメージしてもかまいません。まず、人型の下に自分で考えた登場人物の名前(例:Aさん、B男、太郎君、花ちゃん、お父さん、お姫様など)を記入してください。物語には、登場人物の立場、気持ち、思い浮かぶ情景も自

由に書いて下さい」と教示した。作業の後、質問紙に感想などを記入して終了した。全所要時間は30分であった。

## 3. 分析方法

参加者に配布した人型シールのプリントには、人型シールのM、Fの記入はしていないが、ここでは分析の便宜上記入する。配置1の中央の2体は、それぞれM右、F左とし、配置2の上部の2体はM左、F右とする。

### 1) 登場人物のデータ

配置1では、中央のM右、F左に書き込まれた登場人物を、配置2では、上部の離れたM左、F右に書き込まれた登場人物の名前を全て抜き出した。

### 2) 人型シールMと人型シールFの関係

配置1の物語ではM右とF左について語られた関係を、配置2の物語ではM左とF右について語られている部分を抜粋する。物語からの抜粋は、筆者と臨床心理士(1名)で実施し、二人の一致を得て抜粋した。

### 3) KJ法による分類

人型シールMと人型シールFの関係について抜粋された文章を筆者と心理学研究科の院生(2名)でKJ法にて分類した。

## 4. 結果

### 1) 人型シールM右、F左、M左、F右について

配置1における向かい合わせで近距離のM右とF左について、参加者全員がM右を大人の男性、F左を大人の女性として理解した(N=57)。配置2における背中合わせで遠距離のM左とF右について、参加者全員がM左を大人の男性、F右を大人の女性として理解した(N=51)(Table 1)。

### 2) 配置について

(1) 向かい合わせで近距離(41mm)の配置における物語の主題と対人関係(N=57)

M右とF左の人型シールを向かい合わせで近距離に配置した場合、物語の主題は、「結婚」が35.1%で最も多く、次いで「会話」が14.0%、「告白」が7.0%、「再会・出会い」が7.0%であった。また「再婚」は5.3%、「恋」は5.3%であった。さらに「別れ」3.5%、「喧嘩」3.5%、と続いた。M右とF左の関係でいずれか一方、ま

Table 1 M右・F左・M左・F右の大小および男女の理解

	M右		F左		M左		F右	
	人数	出現率	人数	出現率	人数	出現率	人数	出現率
大	57	100%	57	100%	51	100%	51	100%
小	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
男性	57	100%	0	0%	51	100%	0	0%
女性	0	0%	57	100%	0	0%	51	100%
	N=57	100%	N=57	100%	N=51	100%	N=51	100%

たは両者におとぎ話の王様、お姫様、王子などの登場人物に見立てた者は31.6%であった。また、父と母、お父さんとお母さんなど、両親に見立てた人は、14.0%であった。物語の内容としては、肯定的な内容の物語を書いた人は、全体の82.5%であった。しかし、これに対して別れや喧嘩のように否定的な内容の物語を書いた人は全体の7.0%であった。その他、肯定的とも否定的とも判断できないものは全体の8.8%であった。MとFを関係付けず、別の人型シールとつなげて物語を作成した人は10.5%であった (Table 2)。

(2) 背中合わせで遠距離(208mm)の配置における物語の主題と対人関係 (N = 51)

M左とF右の人型シールを背中合わせで遠距離に配置した場合、物語の主題は、「喧嘩」が23.5%で最も多く、次いで「離婚」が15.7%、「死別」11.8%、「不和」9.8%、「別れ」7.8%であった。また、「結婚」は2.0%であった。M左とF右の関係で「お父さんとお母さん」「パパとママ」など、登場人物に両親を用いた人は39.2%であった。また、「パパとママの姉」や「お父さんと愛人」など、どちらか一方に父親か母親を使った人は23.5%であった。物語の内容としては、喧嘩、離婚、死別などのように悲劇的な結末に至るものが多く、このように否定的な内容の物語を書いた人は、全体の68.6%であった。これに対して結婚のような肯定的な内容の物語を書いた人は、全体の2.0%であった。その他、肯定的とも否定的とも判断できないものは、全体の7.8%であった。MとFを関係づけず、別の人型シールとつなげて物語を作成した人は21.6%であった (Table 3)。

## 【考 察】

### 1. 人型シールの大小について

調査に使用された大きいシールは配置1、配置2のいずれの場合も全て大人と認識された。これは「事例から人型シールを貼る調査」(住沢・福島, 2008)においてmは男の子、fは女の子というように小さいシールは子供として理解された結果に加えることができる。つまり、大きいシールは大人として、また小さいシールは子供として理解されることが明らかになった。

### 2. 人型シールの配置について

TATは、投映法としては臨床現場でロールシャッハに次いでよく使われる投影法であり、1枚の絵を被検者に見せて1つの物語を作ることクライアントの心理状態を調べるものである(鈴木, 2004)。本調査は、このTATの手法からヒントを得て、配置された人型シールから参加者がどのような主題で物語を作成するか検討した。人型シールによる対人関係表現に関する研究(住沢・福島, 2008)において、次の4点が指摘されている。①方向と距離については、好意を寄せている場合は人型シールを相手に向けたり、相手の近くに配置する。②相手に対する嫌悪感、背を向ける、相手に距離をとる配置になる。③大小に関しては、大人は大きいシール、子供は小さいシールといった表現のほかに、対人関係において自尊感情が低く、立場が弱いといった場合にも小さい人型シールが使用される。④上下の配置に関しては、対人関係において自尊感情が低く、立場が弱いといった場合には相手より下に配置される。

そこで本稿では遠近に明らかな差(41mm・208mm)のある距離と方向(向かい合わせ・背

Table 2 配置1. 向かい合わせで近距離(41mm)のM右とF左

◎は関係の主題が2つ以上あるもの

( )内の数字は参加者番号 N=57

主題	出現率	M右とF左の関係	具体的な内容の例
肯定的	結婚 35.1% (20人)	彼と私	お姫様と王子様の結婚を祝うものでした。(9)
		お父さんとお母さん	王子様とお姫様の結婚式です。(11)
		花婿と花嫁	今日は王様が新しい奥さんをもたらす日です。(21)
		王子様と娘	木こりとお姫様は結婚し・・・(22)
		お姫様の恋人とお城のお姫様◎	今日は王様とお姫様の結婚式です。(24)
		王子さまとお姫様	今日はおめでたい結婚式です。(26)
		新郎と新婦	こうして2人はけっこんすることになり幸せに暮らしました。(35)
娘の夫となる人と娘	花婿さんは今まさに、これから奥様になる花嫁さんに指輪をはめてあげたところです。		
王子様と白雪姫	多くの人々に祝福されて結婚した二人は、永遠に幸せに暮らしていくでしょう。(44)		
掃除係とお嬢様	そして王子様と女の子はいつまでも二人仲良しでくらししました。(45)		
花婿と花嫁	王子と娘と娘の父親の3人だけで結婚式をあげました。(50)		
王子さまと町の女の子	ある国のお姫様は最近隣の国の王子から求婚をされました。(57)		
男の人と女の子			
ジョンとアリス			
王子と娘			
婚約者と社長令嬢			
王様と後妻			
新郎と新婦			
王子と町の娘			
王子とお姫様			
肯定的	会話 14.0% (8人)	おじいちゃんとおばあちゃん	おじいちゃん、おばあちゃんは、こたつに入って楽しそうに話をしています。(2)
		王様と王女様(2)	王さまと王女さまと男の人が立って何やら話していました。(17)
		父と母	お父さんとお母さんが何やら話をしています。(25)
		学校の先生と母	いづみとその恋人が楽しそうに話していました。(49)
		お父さんとお母さん	
		いづみの恋人といづみ	
八百屋さんとお母さん			
肯定的	告白 7.0% (4人)	友達B君とAさん	ついに王子様は姉にプロポーズしました。(20)
		王子様と姉	Aちゃんがかねてから想いを寄せていたB君に告白するために電話でB君のことを・・・(30)
		B君とAちゃん	A子さんは同じクラスのCさんに告白され・・・(32)
告白		おじいさんはついに告白して・・・(46)	
肯定的	再会・出会い 7.0% (4人)	ある男とある女	中学校の同窓会がありました。私の好きだった人は、前とは違ってときどきする位、かっこ良くなっていました。(3)
		お父さんとお父さんの妹	お父さんとその妹はとても嬉しそうに再会を喜びました。(4)
		B君とAさん	
訪問者と奥さん			
肯定的	再婚 5.3% (3人)	みほちゃんパパとさとりくんママ	お父さんは何日もAちゃんのお家に通い、2人は、とても仲良くなりました。(8)
		お父さんとお母さん	
		王様と継母	
肯定的	恋 5.3% (3人)	王子様とお姫様	エマはお金持ちの貴族の美しい娘でした。
		アランとエマ	アランは近くに引っ越してきた青年で社交的な性格でした。2人は急速に互いを好きになりました。(13)
		若い男の人と主人公	
否定的	別れ 3.5% (2人)	C男とB美	14年間共に生活してきた家族との別れだ。(48)
		長男とお母さん	おじの家族からいじめられ家を出て行くことにします。(55)
否定的	喧嘩 3.5% (2人)	お父さんとお母さん(2)	お父さんとお母さんは大ゲンカ。(23)
その他	おとぎ 思いやり 仲直り 夢の中 たくらみ デュエット 10.5% (6人)	父に化けた狐と実母	馬をひいていた男が「お迎えに上がりました。姫。」と言うとナナの手をひき、夜の空へ飛びたつのです。ふと気がつくと、きれいなドレスをまとったナナは、王子様と楽しく踊り、楽しい時間を過ごすのです。(15)
		お父さんとお母さん	
お父さんとお母さん			
王子様とお姫様			
主人と秘書			
男性歌手と女性歌手			
関係性なし	8.8% (5人)	魔法使いと町の娘	別の登場人物との関係で表現(5)
		駅員さんとB子さん	
		父と母	
		男と愛人	
他国の王様と女王様			

Table 3 配置2. 背中合わせで遠距離(208mm)のM左とF右

( ) 内の数字は参加者番号 N=51

	主題	出現率	M左とF右の関係	具体的な内容の例
否 定 的	喧嘩	23.5% (12人)	お父さんとお母さん 5 パパとママ お父さんと姉 パパとママの姉 父(けいすけ)と彼女(みさき) 父と母 父と恋人 恋人(Bくん)と恋人(Aさん)	お父さんとお母さんはケンカ中。ケンカの原因はお母さんの浮気でした。この夫婦のケンカはしばらく収まりそうにありません。(10) パパとママがケンカして、おねえちゃん、いもうと、おとうとはパパの味方について、ママは1人。(14) 突然、お父さんとお母さんの仲がわるくなっちゃったんだ。(19)
	離婚	15.7% (8人)	パパとママ 夫と妻 父と母 お父さんとお母さん 3 はるおさんとさちこさん A男とA子	お父さんは、弁護士を雇い、お母さんと離婚しようとしてきました。(22) 1ヶ月が経とうとした頃、両親は離婚することになってしまいました。(23) 夫の日々の暴力と子供への被害をおそれた母親は、離婚を決意したのです。(26)
	死別	11.8% (6人)	子供の実のお父さんと子供の実のお母さん とおるさんとはるこさん 村長と村長の奥さん パパとママ お父さんとDさん 皇子様とお姫様	一緒に車に乗っている時に交通事故にあってしまいました。(2) AちゃんとBくんのママは病気になって死んでしまいました。(20) お父さんは悲しいことに、3ヶ月ほど前に病気になって死んでしまいました。(35) 泣きつかれて死んでしまいました。(51)
	不和	9.8% (5人)	夫と奥さん (2) お父さんとお母さん 1年後のお父さんと1年後のお母さん 王子様とお姫様	夫と奥さんは結婚3年目の夫婦だったけれど、夫婦仲が最近ぐくしゃくしはじめた。 お父さんとお母さんは仕事が忙しく大変なものもあり仲が冷たいものになっていきました。(38)
	別れ	7.8% (4人)	お父さんとA子 お父さんと愛人 B男とA子 恋人(彼)と恋人(彼女)	お父さんは学生時代に一般庶民のA子と付き合っていたが、親に反対されて別れてしまった。(3)
	肯定的	結婚	2.0% (1人)	王子様とお姫さま
その他	独立	3.9% (2人)	長男と長女 お兄ちゃんとお母さん	長男は大学を出て会社に入り、1人暮らしをしているため家から出て行ってます。(6)
	激励 出勤	2.0% (1人) 2.0% (1人)	父と母 お父さんとお母さん	夫は妻を励まし続けましたが、妻の元気も声も戻らず・・・(45)
関係性なし		21.6% (11人)	お父さんとお母さん 再婚相手と娘A 父親と厳しい初老の家庭教師 お父さんと愛人 王さまと王女の姉 お父さんとデパート店員 タロウ(フリーター)とハナコ(お嬢様) 王子様とお姫様 お父さんと女性 BさんとAさん お父さんとお店の店員	別の登場人物との関係で表現

中合わせ)で配置された人型シールについて、参加者が物語を作成し、その物語において共通の対人関係が表現されるかを調べた。調査は集団個人法で実施したため、臨床におけるような個別の心理状態を測定できる設定ではないが、人型シールの配置から参加者が物語を想像できるか、また、距離や方向から特徴が見出せるかを検討した。その結果、男性をイメージしやすいMの人型シールは参加者全員が男性と認知し、女性をイメージしやすいFの人型シールは女性と認知して物語を作成した。従って、M前後、M右、M左は男性、F前後、F右、F左は女性の人型シールとして扱うことが可能になった。

また、向かい合わせで近距離の2体の人型シールの配置からは結婚、会話、告白、出会いなど肯定的な内容の物語が大半を占め(82.5%)、2体の人型シールが対になっていると理解した人は全体の89.5%であったことから、向かい合わせで近距離の配置は、シール同士が関連した一対であると理解されることが分かった。また、臨床現場において向かい合わせで近距離に配置された人型シールは、その関係性がおおむね肯定的なものと判断できるであろう。

背中合わせで遠距離の2体の人型シールの配置からは、喧嘩、離婚、死別、不和、別れなど否定的な内容の物語が多く(68.6%)、2対の人型シールを関連付けず別の人型シールと関連させて理解する者が目立った(21.6%)ことから、背中合わせで遠距離の2体は、互いが関係しない状況を示唆したと言えるであろう。また、背中合わせで遠距離の配置からは、その関係性において否定的な感情が含まれている可能性が大きいと言えるであろう。この結果は、先に述べた「事例を人型シールで表現」した研究(住沢・福島, 2008)と重なる点が多い。しかし、臨床現場においてクライアントが表現する配置は複雑であり、1対の人型シールの表現からだけでは判断できないであろう。臨床においては、表現された人型シールについてクライアントが語ることから始まると言っても過言ではない。人型シールをクライアントとカウンセラーが共に眺めながら、カウンセラーはクライアントを理解し、クライアントはカウンセラーに語

る中で自己理解を深め、クライアントとカウンセラーが共通の認識を確認するといったカウンセリングのプロセスを促進する働きを持つと思われる。福島(2004b)はカウンセリングのプロセスについて、まず第一に、クライアントが語る内容をカウンセラーが共感的理解などの基本態度と傾聴技法などによって援助する段階、次にクライアント自身が自己理解する段階、そしてクライアント自身が自分で決定した目標に向かい行動修正するのを援助する段階としている。臨床の中、クライアントが自分の対人関係をカウンセラーの前で配置し、貼るという作業、そしてその作業をカウンセラーが静かに眺めるという行為は、カウンセリングにおけるプロセスの第一段階と共通するものと思われる。次にクライアントが貼った人型シールについてカウンセラーが尋ね、クライアントが答えるという作業は、カウンセリングのプロセスの次の段階、つまり、クライアントの自己理解に繋がると思われる。

### 3. ツールとしての可能性

カウンセリングに導入するツールは数多くあるが、氏原(2004)が心理アセスメントについて「被検者に役立つ情報を引き出そうとするもの」と述べているように、クライアントにとって有益であってこそ導入の意味があるもので、不利益になるアセスメントを安易に導入してはならない。人型シールは、数多くの先行研究の臨床に導入するツールの発想や可能性と重なる部分もあり、それらの留意点を念頭に置きつつ新たな可能性を持つ手法として研究されてきた。人型シールを導入する基本的姿勢は他の心理療法と同じくクライアントへの受容、共感がベースとなっており、通常は言語によるカウンセリングの中で導入される。一方、言語表現が苦手なクライアントの場合は、人型シールを導入することで非言語によるコミュニケーションも成立すると思われる。河合(2002)は、箱庭療法を治療的な面から見た場合、遊戯療法と絵画療法の間にあるものと位置づけており、非言語的な表現を媒体とするという共通点を挙げ、言語を主体とする他の療法と区別している。人型シールは箱庭のような自由度は無いが、具体的な人の形をしているため現実の対人

関係を表現しやすいと思われる。従って、人型シールは通常は言語中心のカウンセリングへの導入であるが、言語表現が苦手なクライアントに対しては、非言語のツールとして活用することも可能と思われる。

本研究における調査では人型シールによる表現から共通の印象を受けることが明らかになった。しかし、本稿による調査の参加者は女子学生であったため、女性特有のイメージの膨らませ方である可能性がある。従って、今後の研究では男性を対象にした研究が必要と思われる。

## 謝辞

調査にご協力いただいた大学院生および学部生の皆様に心よりお礼申し上げます。また、丁寧な査読をしてくださった査読者に感謝申し上げます。

## 引用文献

- 青野篤子 (2003). 対人距離の性差に関する研究の展望—従属仮説の観点から— 実験社会心理学研究, 42 (2), 201-218.
- Bull, Peter (1987). *Posture and Gesture* (Vol.16). Oxford: Pergamon Press. (市河淳章・高橋超編訳、飯塚雄一・大坊郁夫訳 2004 姿勢としぐさの心理学 北大路書房)
- 福島脩美 (2004a). カウンセリングの終結と総点検を主題として (福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦編 カウンセリングプロセスハンドブック). 金子書房, 157-165.
- 福島脩美 (2004b). カウンセリングの段階と基本プロセス はじめに (福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦編 カウンセリングプロセスハンドブック). 金子書房, 39-40.
- 本間道子 (1990). 対人距離のイメージ (空間のイメージ特集) 数理科学, 28, 73-77.
- 池田豊應 (2002). 投映法 (上里一郎監修 心理学基礎事典). 至文堂, 246.
- 亀口憲治 (2003). 家族のイメージ 河出書房新社, 38-39.
- 河合隼雄 (2002). 箱庭療法入門 誠信書房, 3-13, 20.
- 川喜田二郎 (2004). 続・発想法 中公新書, 48-98.
- 倉光 修 (2004). カウンセリングの構造 (福島

- 脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦編 カウンセリングプロセスハンドブック). 金子書房, 20-27.
- 草田寿子 (1995). 家族関係単純図式投影法の基礎的研究—家族関係査定法としての可能性— カウンセリング研究, 28, 21-27.
- 草田寿子 (2002). 家族関係単純図式投影法—家族アセスメントの視点から— 文教大学人間科学部人間科学研究, 24, 5-10.
- 前川承包 (2004). 心理テストと処遇 (氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕編 心理臨床大事典). 培風館, 636-638.
- Mehrabian, A. (1968a). Inference of attitude from the posture, orientation and distance of a communicator. *Journal of Consulting and Clinical Psychology* 32, 296-308.
- Mehrabian, A. (1968b). Relationship of attitude to seated posture, orientation and distance. *Journal of Personality and Social Psychology* 10, 26-30.
- 水島恵一 (1978). 実証的かつ実感的な体験研究の方法とテーマ 文教大学紀要 12, 1-11.
- 水島恵一・安武良志子 (1992). パーソナルコンピュータによる図式的投映法 カウンセリング研究, 25 (1), 9-18.
- Murray, H.A. (1943). *Thematic Apperception Test Manual*. President and Fellows of Harvard College.
- 渋谷昌三 (1978). 図解 社会空間モデル試論 学習院大学文学部研究年報, 25, 157-172.
- 杉浦京子 (1994). コラージュ療法 川島書店, 3-23.
- 杉浦京子 (1999). 同時制作法 (森谷寛之・杉浦京子, 現代のエスプリ コラージュ療法) 至文堂 79-80.
- 住沢佳子 (2003). 情緒不安定な学生へのコラージュを用いた長期カウンセリング カウンセリング研究, 36, 446-456.
- 住沢佳子 (2007). ゲイという性的マイノリティへのカウンセリング カウンセリング研究, 40, 295-305.
- 住沢佳子・福島脩美 (2005). 人型シールによる対人関係表現に関する研究 日本カウンセリング学会第38回大会発表論文集, 161-162.
- 住沢佳子・福島脩美 (2006). 人型シールによる対人関係表現に関する研究2 日本カウンセリング学会第39回大会発表論文集, 114.
- 住沢佳子・福島脩美 (2007). 人型シールによる対人関係表現に関する研究3 日本カウンセリ

- グ学会第40回大会発表論文集, 157.
- 住沢佳子・福島脩美 (2008). 人型シールによる対人関係表現に関する研究 目白大学心理学研究, 4, 111-123.
- 須永範明・水島恵一・草田寿子 (1994). 図式的投影法を用いたパーソナリティ特性の予測 カウンセリング研究, 27, 105-113.
- 鈴木睦夫 (2004). TAT (主題統覚検査) 心理臨床大辞典. 培風館, 536-541.
- 高石浩一 (2004). 臨床心理アセスメント技法 心理臨床大辞典. 培風館, 448-452.
- 田中勝博 (2004). 絵画療法によるカウンセリングのプロセス (福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦編 カウンセリングプロセスハンドブック). 金子書房, 329-334.
- 徳田智代 (2006). 常勤カウンセラー配置による教職員との連携・協働関係の形成 学生相談研究, 27, 5-37.
- 氏原寛 (2004). 心理アセスメント (総論) 心理臨床大辞典. 培風館, 436-440.
- 山口正二 (1994). 教師の自己開示特性と心理的距離に関する研究 カウンセリング研究, 27, 126-131.
- 山口正二・吉澤健二・原野広太郎 (1989). 生徒と教師の心理的距離に関する研究 カウンセリング研究, 22, 26-34.
- 山口正二・小島弘史・原野広太郎 (1991). 性格類型に規定される心理的距離に関する研究 カウンセリング研究, 24, 11-17.
- 山口正二・米田光利・原野広太郎 (1993). 教師の指導態度と心理的距離に関する研究 カウンセリング研究, 26, 107-112.

## A study of the perceived interpersonal relationship by using the Person-Shaped Sticker (PSS)

Yoshiko Sumizawa Mejiro University, Graduate School of Psychology  
Osami Fukushima Mejiro University, Faculty of Human Sciences

Mejiro Journal of Psychology, 2009 vol.5

### **【Abstract】**

Person-Shaped Sticker (PSS) was developed as a tool for adequate assessment of perceived interpersonal relationship in the counseling situation. Also it was expected to become a counseling tool for client understanding. This paper was one of research projects with PSS. Participants were divided into two groups. The form arranged in the short distance was given to one of the groups. And, the form arranged in the distance was distributed to another group. Two PSS in the short distance were set face to face, and two PSS in the distance were set in the back match. The participant made stories by seeing the form. Stories were classified according to the KJ method. As a result, affirmative stories were written at the arrangement of the short distance. Negative stories were written at the arrangement of the distance.

**keywords** : Person-Shaped Sticker (PSS), assessment of perceived interpersonal relationship, client understanding, counseling tool